

「住んでよかった」と思える **みよし市** を目指します！

わたなべいくお

くらしの相談

担当者レポート No.43



発行日：令和8年1月28日

発行所：トヨタ自動車労働組合

発行人：飯田 智士

編集者：渡邊 郁夫

印刷所：(株)トヨタエンタプライズ

わたなべいくお の主な取組み

くらしの相談対応事例

ここがポイント

安全・安心な歩道整備を行いました



(要望) 下山工場従業員西第1駐車場から通用門までの通勤経路となっている歩道が未舗装のまま、以前に砂利を押し固める簡易舗装が実施されたものの、現在は荒れており、歩行時に危険な状態。安全確保のため、舗装整備の実施をして欲しい。



(回答) 道路河川課へ、これまでの経緯を踏まえて対応を依頼し、舗装整備が実施されました。

要望場所

トヨタ自動車
下山工場

西第1駐車場

県道284号

対応前



砂利がはがれて歩きにくい！

対応後



アスファルト舗装へ変更

トピックス

ここがポイント

先進的な取組を保育園で実施しました



城山保育園は、老朽化への対応と保育環境の向上を目的に、福谷町仲田へ移転新築され、2026年4月の開園を予定しています。新園舎は木造で整備され、子どもが快適に過ごせる温かな空間づくりや安全性の向上、園庭整備、再生可能エネルギーの活用など、保育機能の充実を図る計画です。

併せて、園北側駐車場では、**トヨタ自動車先進プロジェクト推進部が開発した自然素材のウッドチップ舗装**を外構に採用したことで、園舎と外構を一体的に評価し、「**あいち認証材 CO₂貯蔵量認定制度**」を取得予定となっており、**県内初の事例となる予定**です。



園児もウッドチップ施工に参加しました。



<一般質問> 「人口減少社会における“安心・安全・快適”の実現に向けて」



〔要旨〕 人口減少が進む中、市民が安心して暮らし続けられる環境の維持・強化を問いました。妊娠期から子育て期の支援、エネルギー転換、公共施設の省エネ化、地域交通の確保など、生活基盤に関する市の課題認識と今後の方向性を確認し、持続可能なまちづくりへの取組を求めました。

愛知県 2/12 (金) 豊田版 この記事は、中日新聞社の許諾を得て転載しています

乗り合いタクシー
みよし市は来年度、同市...
あさぶの丘には、2200...
あさぶの丘には、2200...
あさぶの丘には、2200...

63公共施設新たにLED化
みよし市は発光ダイオード(LED)化を...
あさぶの丘には、2200...
あさぶの丘には、2200...

産南
あさぶの丘には、2200...
あさぶの丘には、2200...
あさぶの丘には、2200...

妊産婦医療費助成制度の創設

〔要旨〕 妊娠期の医療費が対象外で、出生後から高校生まで助成される本市支援の不連続性を指摘しました。全国で妊産婦医療費助成が進む中、本市では制度の必要性や課題整理、先行事例の分析が十分でない現状を示し、妊娠期から切れ目なく子どもを守る施策として検討を求めました。

問 妊産婦医療費助成制度が導入されていない現状について、市はどのような課題認識を持ち、制度化の検討を今後どのように進めていくのか。

答 市は妊産婦医療費助成の具体的検討や費用対効果の把握は行っていないが、切れ目ない支援の必要性は認識しており、既存施策と連携し子育て支援の充実を図ると答弁しました。

私の考え 出生前も出生後も等しく「こども」であり、妊娠期の医療支援は出生後の健康支援と本質的に同じです。しかし本市では妊娠期のみ医療費助成がなく、「切れ目ない支援」との整合性に課題があります。先行自治体の効果を踏まえ、引き続き妊娠期支援を子育て施策の中でどう位置づけるか、さらなる検討を求めます。

デマンド型交通の導入

〔要旨〕 あさぶの丘など新興住宅地で、乗継タクシーが通勤・通学ニーズに十分対応できていない実態を踏まえ、交通需要の把握やAI配車など先進技術の活用について質問しました。市は、デマンド交通の有効性を検証するため、あさぶの丘地区で実証事業を実施する方針を示しました。

問 通勤・通学ニーズに答えられていない現状を踏まえ、デマンド交通をどう評価し、今後どのように実証するか。



答 市は、AI配車などの先進事例が利便性向上や運行効率化に有効と認識し、通勤・通学ニーズへの対応として、あさぶの丘地区でデマンド交通の有効性を検証する実証事業を、令和8年4月から実施する方針を示しました。(記事)

公共施設のLED化推進

〔要旨〕 蛍光灯の製造終了を踏まえ、公共施設のLED化の遅れと優先順位付けの必要性を指摘し進め方を質問。市は一括リース方式を活用し、2030年までに全施設のLED化を完了させる方針を示しました。

問 公共施設LED化を、本市はいつまでに、どのような手法で進めていくのか。



答 市は、2030年までに全ての公共施設のLED化を完了させる方針を示しました。その実現に向け、一括リース方式を活用し、複数年度にわたり計画的かつ効率的に更新を進めていく考えを明らかにしました。(記事)

ペロブスカイト太陽電池の実証実施

〔要旨〕 次世代技術であるペロブスカイト太陽電池について、軽量で設置自由度が高い点などの優位性と、公共施設への活用可能性を確認しました。城山保育園を実証フィールドとした取組を評価し、得られた知見を本市の脱炭素施策へ着実に生かすよう求めました。

問 ペロブスカイト太陽電池の社会実装に向け、本市は実証事業に取り組む考えは



答 軽量で設置自由度が高い新技術として、再生可能エネルギーの導入拡大に寄与すると評価し、本市として社会実装に向けた実証を進めていくとの答弁でした。城山保育園を実証フィールドとして応募しており、得られた知見を今後の環境施策に生かす考えが示されました。